



世界一のお父さんパンダ永明。

世界一のお父さんパンダ永明と動物愛護の問題を語る

世界が注目する 和歌山のヒーロー

仁坂知事(以下仁坂) ●湯川れい子さんは、エルヴィス・プレスリーやビートルズなどを国内に広め、独自の視点によるポップスの評論・解説を手がけながら作詞家としても数多くの受賞をされています。また音楽活動以外にも今年2月に白浜町アドベンチャーワールドのジャイアントパンダ「永明」が受賞した「日本動物大賞(※公益財団法人 日本動物愛護協会主催)」の審査委員長も務めるなど、広く動物愛護の活動にも尽力されています。そこで本日は和歌山のパンダや動物愛護についてのお話などをお伺いできればと思います。

湯川れい子(以下湯川) ●和歌山には過去に一〜二回程度、南紀白浜の千畳敷などにお邪魔したような記憶があります。
仁坂 ●南紀白浜には千畳敷や三段壁などの観光名所やパンダファミリーが暮らすアドベンチャーワールドもあります。
湯川 ●そうなんです。でも私が訪ねた

のはパンダもいないような昔の話ですか(笑)。実は世界的な指揮者カラヤンさんと日本で一番親しかったといわれる私の友人が非常にパンダが好きで、よく私に「どうして白浜に行かないの。上野なんか落ち着いて見ることもできないでしょう?」って言うんですね。よく聞くと彼女は何年もの間、パンダに逢うために毎年のように白浜に行ってるそうです。
仁坂 ●飛行機だと東京から白浜まであとという間ですからね。
湯川 ●そうですね。私が彼女に「どうやって行くの?」って聞くと「何言ってるのれい子。飛行機でビュ〜。たったの1時間だよ」と怒られるんです。

仁坂 ●現在、白浜にはお父さんパンダの永明とお母さんの良浜。2014年生まれの双子、桜浜・桃浜。そして2016年に生まれた結浜の5頭がいます。実はアドベンチャーワールドではすでに15頭

知事対談

湯川れい子 × 仁坂吉伸

音楽評論家・作詞家

和歌山県知事



が生まれ、永明は14頭のお父さんです。
湯川 ●それは凄いですね。もしかしたら世界一だとか?

仁坂 ●もちろんです。パンダはワシントン条約で絶滅危惧種に指定されているため、商業目的の国際取引が禁止されています。アドベンチャーワールドにいるのも共同繁殖研究として借りているのですが、実は私が通産省輸入課長の時に永明たちの輸入許可を行ったんですよ。それが今や和歌山県知事をしているのですから不思議な縁と特別な思い入れがあります。永明は中国を除くと動物園で飼育されているパンダの多子記録と最高齢お父さん記録を更新中です。また中国以外で14頭のパンダが生まれたのは圧倒的に世界一。まさしく世界一のお父さんです。
湯川 ●それは凄いですね。現在永明くんは25歳ということですが、お元気で何よりです。そして絶滅が危惧されている種の保存に貢献したそれらの点などを踏ま



湯川れい子(ゆかわれいこ)

東京都目黒生まれ、山形県米沢で育つ。代表的なヒット曲に、「涙の太陽」や「ランナウェイ」、「センチメンタル・ジャーニー」、「恋におちて」などがあり、FNS歌謡祭音楽大賞最優秀作詞賞やJASRAC賞、オリコン トップディスク賞作詞賞など、各レコード会社のプラチナ・ディスク、ゴールド・ディスクを数多く受賞。またディズニー映画「美女と野獣」アラジン」「ポカホンタス」「ターザン」などの日本語詞も手がけている。

※TNRとは`trap=捕獲、netet=不妊去勢、release=解放、の頭文字。地域猫を捕獲し、避妊手術を施し、元の場所に戻す活動。不要な繁殖を防ぐために行われる。

湯川 ● 今では野良犬を見かけることはあまりありませんが、犬の殺処分は居住空間の中で飼えなくなった人やブリーダーが愛護センターに持ち込むことが多いです。中には病気や無駄吠えしたり噛んだりという問題行動が原因で飼育放棄される犬も多いですね。それで現在は、8週齢未満の犬猫の販売規制を盛り込んだ動物愛護法の改正にも注目しています。

湯川 ● いいですね。近いうちに和歌山にお邪魔したいですね。
仁坂 ● 是非お越し下さい。飛行機でビュ〜ですから(笑)。本日はありがとうございます。

うやく平成29年に「和歌山県動物の愛護及び管理に関する条例」を施行しました。例えば「飼い猫の野良猫化を防ぐこと」や、「ルールに則った餌やりを促す」等を条例で制定し、全国的にも珍しい県による不妊去勢手術費用の全額助成や、保健所などに引き取られた猫の譲渡の促進、飼えなくなった猫の新しい飼い主を探すマッチング等の施策を進めています。その甲斐あってか近年は少しずつ成果が見え始めて来ているように思うのですが、未だ



知事対談

湯川れい子 × 仁坂吉伸

音楽評論家・作詞家 和歌山県知事

湯川 ● 保護した猫の不妊去勢手術費用の全額助成は凄いですね。実は地域猫も含まれた野良猫は捕獲するのも大変で、しかもせっかく保護しても不妊去勢手術の助成金が足りなくてできないこともありま

仁坂 ● それはどのようなものですか？
湯川 ● ヨーロッパなどでは禁止されていますが、日本では生まれて間もない子犬などを販売しています。実は生まれて8週間というのは親とのスキンシップが重要な期間で、その間に人間や他の犬との関係を持つことで、吠え癖や噛み癖がつかないといわれています。規制の結果、問題行動が原因で飼育放棄される犬猫が少しでも減ればと思っています。まさに梅梅の愛情たっぷりの子育てと同じですね。

湯川 ● 県でも保護猫をなんとか飼ってあげたいとは思いますが現実には難しく、上手くバースコントロールができればと考えています。
湯川 ● 今では野良犬を見かけることはあまりありませんが、犬の殺処分は居住空間の中で飼えなくなった人やブリーダーが愛護センターに持ち込むことが多いです。中には病気や無駄吠えしたり噛んだりという問題行動が原因で飼育放棄される犬も多いですね。それで現在は、8週齢未満の犬猫の販売規制を盛り込んだ動物愛護法の改正にも注目しています。

仁坂 ● 勝浦漁港で水揚げされる生マグロは絶品。クロマグロだけでなくメバチやピンチョウと種類も豊富です。また川がそのまま温泉だったり、大きな洞窟の中に湧く温泉だったり、世界遺産に登録されている温泉もあります。もちろん星や月を見ながら入れる温泉なんかもありますよ。
湯川 ● いいですね。近いうちに和歌山にお邪魔したいですね。
仁坂 ● 是非お越し下さい。飛行機でビュ〜ですから(笑)。本日はありがとうございます。

湯川 ● 永明の前のパートナーで、良浜の母でもある梅梅の子育てが上手だったことです。双子が生まれるのはそれほど珍しくないのですが、生まれて間もないパンダは非常に小さく、片方の授乳に気が取られ、もう片方を母パンダが圧死させてしまうような事故が多いそうです。それで中国では授乳が終わったら別の子パンダを交換するように抱かせ、授乳が終わった方を保育器に入れるそうです。しかし梅梅はそんな風に飼育員さんの手を煩わすことなく、自ら交互にうまく授乳させ双子パンダを育て上げました。
湯川 ● 梅梅は子パンダを愛情たっぷりに育てたわけですね。
仁坂 ● そうです。そして母親の愛情をたっぷり受け、中国に旅立った11頭のうちの4頭が繁殖に関わり、12頭の子孫が誕生するなど、和歌山のパンダファミリー



5頭のジャイアントパンダが暮らすアドベンチャーワールド。中国生まれの永明は1994年に来日し、梅梅との間の6頭、良浜との間の8頭、計14頭のお父さん。良浜は梅梅の娘で日本生まれ。フリーディングセンターで永明と良浜が暮らし、パンダラブで桜浜、桃浜、結浜が暮らしている。上/パンダラブ 右/永明との間に3組の双子を含む8頭の子パンダに恵まれた良浜。アドベンチャーワールド 住所/西牟婁郡白浜町堅田2399 電話0570-06-4481(ナビダイヤル)



湯川 ● 白浜での長い親子のスキンシップの中で、パンダ達は子育てや愛情など何かを学んだのでしょうか。
仁坂 ● もしかすると人工飼育を何世代も重ねていると、子孫を残し育てようとする母性本能が減少してしまうのかもしれないですね。
湯川 ● 先ほどの友人が「白浜に行けば可愛い子が二頭もいるのよ!」と力説していたのはそういうことだったんですね。
仁坂 ● 上野動物園の香香も先日、1歳を迎えましたが、上野ファミリーもどんどん大きくなり、白浜の永明ファミリーと国内生まれ同士でお見合いとかできるようになればいいですね。
和歌山の猫対策と保護活動について
仁坂 ● 湯川さんは動物愛護活動の分野でも活躍されています。
湯川 ● 私はエンジン01文化戦略会議の動物愛護委員会・委員長をやっています。その委員会の取組の中で県や市と提携したオープンカレッジというのを行っています。その際に地域の動物愛護の状況聞き、なぜ殺処分になるのか?、なぜ殺処分が減らないのか?、なぜその地域では殺処分が減少したのか?、等を探証し、私たちも一緒に勉強しながら、動物愛護の啓発活動を行っています。

湯川 ● 私はエンジン01文化戦略会議の動物愛護委員会・委員長をやっています。その委員会の取組の中で県や市と提携したオープンカレッジというのを行っています。その際に地域の動物愛護の状況聞き、なぜ殺処分になるのか?、なぜ殺処分が減らないのか?、なぜその地域では殺処分が減少したのか?、等を探証し、私たちも一緒に勉強しながら、動物愛護の啓発活動を行っています。

仁坂 ● 和歌山県でも以前から動物愛護の取組を進めていました。特に猫が原因の苦情が絶えず、野良猫への餌やりや飼いや方等でトラブルが起きていました。また猫の殺処分件数も長年全国ワースト順位が高い状態でした。こういった課題を何とか解決して、人と動物が共生できる社会づくりを目指したいと思い、一昨年から「不幸な猫を無くすプロジェクト」として、地域猫対策を積極的に進め、「殺処分ゼロ」を目指しています。そしてよ

